

『おもいでづけ』

作・岩本憲嗣

■登場人物

伊山公子(39/19) 女優

松村修造(59/39) 俳優

伊山愛(32) 公子の妹

サリーム・バハディ(42) 公子の夫

澤田優子(40) サリームの秘書兼通訳

店長

マネージャー

記者1

記者2

○軽井沢銀座商店街・公子の店・概観

一 際ど派手な建物が建っている。

○公子の店・中・2階

片手に漬物の入ったバスケットを抱えた公子の等身大の像が置いてある。その隣で像と同じポーズをとる伊山公子(39)それを眺める伊山愛(32)と店長。

公子「似てると思わない？ ねえ？ 愛ちゃん」

愛「はいはい、それより店長さん困ってるよ」

店長「いや、なんというか全然聞いていなくてですね、その売上目標でありますとか」

携帯電話が鳴る。公子、携帯を見る。

公子「げ、マジ？……旦那サマだ」

携帯を取りアラビア語で話し出す公子。

店長「あ、本当にアラビア語話せるんですね」

愛「アラビア語講座のお姉さんやってみましたから、20年も前だけど」

愛を睨みつけて電話を切る公子。

愛「ははは、お義兄さん？なんだったって？」

公子「会いたいよおって、馬鹿みたい。で、何？売上？そんなのいいから。この店の目標は一つ、赤出してもあの店を潰す事よ」

公子が窓の外に視線をやる。そこには日本家屋調の漬物店、店先には籠いっぱい野菜を抱えた松村修造の人形。

○ 軽井沢・田園風景

松村修造(39)が籠いっぱい野菜を抱えて伊山公子(19)の元に走って来る。

公子「どうしたんですか……その野菜」

松村「農家のおばちゃんくれた。道聞いたら持って行って」

○ 軽井沢・林道

林道を走るオープンカー

○ オープンカー・車内(夕)

運転する松村、籠の中の胡瓜をとり齧る。それを助手席でみつめる公子。

○ 軽井沢・牧場

並んで乗馬する松村と公子

○ 軽井沢・テニスコート

楽しそうにテニスをする松村と公子。

○ 軽井沢銀座・カフェテラス（夕）

向い合って座る松村と公子。

公子「先生、今日はその、楽しかったです…その、そろそろ帰らないといけませんね」
松村「いや、帰りたくないな。……このまま君とずっと一緒にいたい」

○ ホテル・公子の部屋（夜）

公子がベッドに横になりながらTVを見ている。画面には夕暮れのカフェテラスで向い合う若い頃の松村と公子。

公子「一緒にいたいんじゃないのかよ？」

公子、リモコンでTVを消す

公子「なんで本当に口説くわけ？捨てるのに」

リモコンをドアに強く投げ捨てる。
ノックの音と同時に愛が入ってくる。

愛「あれ？何か怒ってる？……あのね、いいお報せと悪いお報せ、どっち聞きたい？」

公子「いい報せ」

愛「上岡ナントカ、ほらあの不動産屋、お義兄さんのトコの子会社が買収に成功して上岡は社長降ろされたって、はい」

愛、公子にノートとマジックを渡す、そこには何人もの男性の顔写真に赤マジックで×がつけられている。公子、マジックで上岡と書かれた男性の写真に×をつける。

公子「お金あるっていいわね、私を泣かしてきた馬鹿どもに天罰下せるんだもの」

愛「楽しい？こんなことしてるから負け犬なんて言われるんだよ」

公子「お金持ってる負け犬なんていません。で、悪い報せってのは？」

愛「そのお金の源の話。お義兄さん明日の朝成田着くからその足でこっち来るって、明日

のオープン記者会見にも出る気満々…」

公子「それは困る！」

愛「もう、どうして？愛されてるんだよ？」

公子「このお店の話してないのよ、詳しくは」

愛「だからって何もそんなに困ること…」

公子「困るのよ！……駄々っこだから」

○ TVスタジオ・楽屋

時代劇の鬘姿の松村修造(50)が座っている。マネージャーが松村に詰め寄る

マネージャー「あきらかに嫌がらせですよ、松村さんのお店の前に店建てるなんて」

松村「……ああ」

マネージャー「こつちも対抗キャンペーンやりましょう、現地で返り討ちにしてやり…」

立ち上がる松村

松村「明日はオフだろ？たまには行くか」

楽屋を出て行く松村。

○ 公子の店・店先

店先に集まった沢山のマスコミのフラッシュを浴びながら会見する公子。

愛「はあ、お義兄さんが来たら全力で止めろって言われても……ねえ」

愛の視線の先に一際長いリムジンがやってきて止まる。中からサリーム・バハディ(42)と澤田優子(40)が出てくる。

愛「ああ！お義兄さん！！」

サリーム、公子を見つけると愛の制止を振切って公子の元に駆け寄る。

公子「だ！なんでアンタ……」

サリーム、アラビア語でまくし立てて公子に抱擁する。嬉しがっている様子。

記者1「今日のお店のオープンに旦那様もお祝いにかけてくれたわけですね？」

優子、サリームの耳元で通訳する。サリーム、優子の耳元に話しかける。

優子「はい、私は、私の妻の、今日という素晴らしい日に立ち会えてとても幸せです。妻のオーナーとなる、このインテリアのショップが繁栄することを強く望みます」

記者2「インテリア？お漬物のお店ですよね？」

優子が耳元で語ると急に激昂して公子にまくし立てるサリーム。

優子「私は聞いていません、私は私の妻は」

公子「説明は後でするから！あっち行って」

尚もまくし立て続けるサリーム、公子もアラビア語で言い争いを始める。

優子「そんな酷い、あなたは酷いです。私は野菜が嫌いです。なのに妻は私は野菜は…」

公子「澤田さん、ちょっと黙ってて！！」

サリーム、大声を上げて泣きじゃくりながら走り去る。

優子「うわああん、公子ちゃんの馬鹿あ」

公子「通訳しなくていいから！ああもう！」

公子、サリームの後を追って走り去る。

追って去る愛。残される澤田と記者達。

○ タクシー車内（夕）

後部座席に座る公子と愛

愛「本当に心当たりあるの？」

公子「あの辺探してみていなかったんだから、そうなると行くとしたら……うん」

愛「でもお姉ちゃん酷いって、なんで正直に漬物屋さんのこと話してなかったの？野菜嫌いだから反対されると思って？」

公子「まさか……なんて説明するの？昔の男に復讐する為に嫌がらせで店開くって？」

愛「それは……まあそうか」

公子「それにあの人の事話したら反対される」

愛「え？」

○テニスコート(夕)

愛「テニスコート？お義兄さんが？」

公子「……あのテニス大好きなのよ」

愛「嘘？知らなかった。映画好きなのは知ってたけど、日本映画好きだよ」

公子「そう、だからテニスも好きになったの。ほらあんたココしらない？」

愛「あ、お姉ちゃん松岡さんとテニスしてた」

公子「松村修造の大ファンなのよ。だから初対面でも私なんかのこと知ってた」

愛「だから復讐なんて言ったら反対か……」

公子「それにあのココ来たことあるのよ。映画のロケ地に行きたいんだって。そこで公子とテニスしたいんだって。それでテニス習ってね」

愛「なにそれ？のろけ？」

公子「……困っちゃうわよね、私を泣かせた人のお陰で今の自分がいて……」

愛の携帯が鳴る、携帯に出る愛。

愛「澤田さん？え？嘘？分かりました」

公子「どうしたの？」

愛「いた、お義兄さん見つけた」

○軽井沢銀座・松村の漬物店の店先(夕)

松村の等身大像の隣で籠いっばいのつけものを抱えてしゃがみこんでいるサリー

ム。その隣に優子。公子と愛が走ってやってくる。

公子「ちょっと……何やってるの？それに」

サリーム、涙目で胡瓜の漬物を食べる。

優子「あ、その、実は連絡をいただいて」

愛「連絡？」

店の中から松村が出てくる。

松村「な、食わず嫌いは駄目だろ」

公子「……松村……さん」

松村、軽く会釈する。

愛「あ、あはは、すみませんご迷惑おかけして、すぐに連れて帰りますんで」
松村「開店祝いです。…お向かい同士、宜しく」

松村、籠から漬物を一切れとり公子に渡す。公子、受取ってじっとみつめる。

サリーム「マツムラサンノ、オイシイ」

漬物をボリボリ食べ続けるサリーム。それをじっと見続ける公子

公子「……よろしく………お願いします」

漬物を噛む公子。辺りにボリツという音が響き渡る。

【終】

※ご利用上の注意※

- ・ 本脚本はどなたでも無料にてご利用いただけます。
- ・ ご利用に当たつての改変などに制限は設けておりません。皆様のご都合に応じて自由に改変頂いてかまいません。
- ・ 本脚本をご利用頂く際は必ず作者 (gumba127@hotmail.com) までメール報告頂けますようお願い致します。
- ・ 但し、練習での使用などの場合はご連絡の必要はございません。
- ・ 連絡が必要かどうかの基準は以下の通りでございます。

※連絡不要の場合

- ・ 仲間内で集まつての練習でのご利用。
- ・ Skype などを紹介しての第三者の聴取・視聴が出来ない形でのご利用。

※連絡が必要となる場合

- ・ ツイキヤスやニコ生など第三者の聴取・視聴が可能な状況下でのご利用。
- ・ 連絡を要する形でのご利用の際は、必ず作品名・作者名をどちらかに記載いただけますようお願い致します。

その他ご不明な点ございましたらお気軽に下記までご連絡下さい。

sunba1227@hotmail.com (岩本)